

クラス5 規則

I-1 【FAI Sporting Cord】

1. クラス5の競技規定は、FAI Sporting Code のGeneral sectionとSection7 を前提として設定されている。参加選手はその双方を良く理解した上で大会に参加すること。

I-2 【クラス5 年度】

1. 年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終了する。(大会成績の公式発表される日付で管理する。)

I-3 【対象大会】

1. F A I カテゴリー2大会を対象大会とする。

I-4 【エントリー】

1. 対象大会に参加した時点から有効となる。

I-5 【計上大会】

1. C I V L 規程に準ずる。

I-6 【ポイント計算式】

1. C I V L 規程に準ずる。

I-7 【ランキング】

1. 毎月1日のC I V L ランキングから日本人選手のみを抽出してランキングをつけて発表し、年間ランキングは12月31日のC I V L ランキングから日本人選手のみを抽出してランキングをつける。

I-8 【シード選手】

1. 当面はなし

I-9 【世界選手権出場選考基準】

1. クラス5の国内大会の成績をもとに競技委員会にて選考する。

《 クラス5 開催規程 》

I-1 【公認大会】

1. 大会はJHF公認（JHFハンググライディング公認大会規則に則った大会）のものとする。但し、海外の大会は除く。

II-1 【参加資格】

1. JHFが認めるJHFフライヤー会員登録者でJHFパイロット証を有するフライヤーであること。
外国人は、JHFパイロットと同等の技能を有し、日本国内で有効な第3者賠償責任保険（JHFフライヤー会員登録）に加入していること。それ以外については大会主催者個別の開催規定に準ずる。
2. FAIスポーティングライセンスを所持する。
3. 参加資格のある者は誰でも参加できなければならない。

II-2 【大会期間】

1. 大会期間は連続した日とする。（休息日を除く）

II-3 【フライト本数】

1. 競技は1日1本とし、サーマルソアリング主体とする。

II-4 【順位】

1. 得点の無い選手の順位は付けない。又、着陸精度は順位得点に含めない。

II-5 【大会報告】

1. JHF所定の大会報告書を大会終了後2週間以内にJHF事務局に提出する。

II-6 【資料送付及び参加承諾】

1. 開催要綱、競技規則等は、大会開催日の2週間前までに選手に送付すること。
2. 大会資料送付にともない、参加承諾書（エントリーNo.）も添付のこと。

II-7 【タイムスケジュール】

1. タイムスケジュールやその場所等は大会要綱に添付すること。

II-8 【受付】

1. 大会が始まる前に受付を行い、最終的な参加者を把握する。又、毎朝受付を行い当日の競技参加者数を確認する。

II-9 【GPS コーディネート】

1. 主催者は選手にターンポイントのGPS コーディネートのダウンロードをする。
2. 主催者は選手にマップデイトムとポジションフォーマットを告知する。
3. マップデイトム：WGS84 ポジションフォーマット：dd mm' ss.s" で統一する。

II-10 【位置説明】

1. 大会本部、公式掲示板、機体解体場、機体駐機場等の場所を明示すること。

II-11 【運搬】

1. グライダーの運搬及び回収方法や、車を使用する場合の道路、駐車場等についてもきめ細かく案内すること。

II-12 【持参品】

1. 大会参加時に持参するべきもの（使用できるGPS、JHFフライヤー会員登録証、パイロット証、FAIスポーティングライセンス、）を案内すること。

2. スカイレジャー無線機の携帯義務

大会参加選手は大会主催者より貸与された、現スカイレジャー無線機を携帯し尚且つスカイレジャー無線機による大会主催者の指示が聞こえる状態で参加フライトする事。

II-13 【使用可能なGPS】

Compatible GPS list (Compe-GPS)

Garmin	<i>Model</i>	Competition
		Garmin 12
	Garmin 12 XL	yes,few points
	Garmin 38	推奨しません。
	Garmin 40	推奨しません。
	Garmin 45	推奨しません。
	Garmin 76	yes
	Garmin MAP76	yes
	Garmin MAP76s	yes
	Garmin II	推奨しません。
	Garmin III	yes,few points
	Garmin V	yes
	Garmin GEKO 201	yes
	eTrex	推奨しません。
	eTrex Summit	推奨しません。
	eTrex Camo	推奨しません。
	eMap	推奨しません。
	eTrex Legend	yes
	eTrex Vista	yes
	eTrex Venture	yes
	Garmin GPSMAP 60C/CS	yes
	Garmin GPSMAP 76C/CS	yes
	Garmin Foretrex 201	yes
	Garmin Forerunner 201	yes
	Garmin Forerunner 301	no
	eTrex Legend C since firmware 2.10	yes
	eTrex Vista C since firmware 2.10	yes
	276 C	yes

	eTrex Venture 日本語版	<i>yes</i>
	eTrex Legend 日本語版	<i>yes</i>
	eTrex Vista 日本語版	<i>yes</i>
Suunto	Suunto x9	<i>yes</i>
	Suunto x91	<i>yes</i>
AIRCOTEC	Top Navigator	<i>yes</i>
	Aircotec XC-Trainer	<i>yes</i>
MLR	MLR SP 24	<i>yes</i>
RENSCHLER	Renschler Sol 15 and 17	<i>yes</i>
Log it	Log it	<i>yes</i>
Magellan	Magellan	<i>yes</i>
	Xplorist series	<i>yes</i>
Broniger	Broniger Galileo	<i>yes</i>
	Broniger Compeo	<i>yes</i>
	Broniger Competino	<i>yes</i>
Flytec	Flytec 6030	<i>yes</i>
	Flytec 5030	<i>yes</i>
	Flytec 5020	<i>yes</i>
Digifly	Digifly VL100 Graviter	<i>yes</i>
	Digifly Flyer	<i>vario</i>
	Digifly Runner	<i>vario</i>
	Digifly Cartesio	<i>vario-logger</i>
MuzzyLogger	MuzzyLogger	<i>yes</i>
Bluetooth GPS	Bluetooth GPS	<i>?</i>

「2006年9月30日現在、尚、今後の機種増減については随時ホームページで告知する」

eTrex・eTrex Summit・eTrex Camo・eMapはタイムインターバル等ログの記録方法を指定できないため、お奨めしません。

Magellanは日時をログに記録しないため、競技用には向きません。

Garmin 12、Garmin 12 XLユーザーは、飛行時間判定時に13秒の遅れが発生することが判明しています。

この問題を避けるためには、GPS内部のソフトウェアを最新のものに更新してください。**Garmin 12、**

Garmin 12 XLともに4.58へ必ず、Updateしてください。

<http://www.garmin.com/support/download.html>

上記のウェブサイトにてGPS内部のソフトを更新できます。(PC-GPSをつなぐケーブルが必要です。)

Garmin 12 Ver.3.53以前、**Garmin 12 XL** Ver.3.58以前の方は13秒間の遅れをUpdateすることが出来ないため、

競技用には向きません。

Brauniger Galileo Ver.2.10に重大なプログラムエラーが見つかりました。

症状は、使っているうちにメモリーにゴミがたまり、時間が急に変な日になったり座標が世界の裏側にいたりダウンロードに時間がかかったりします。

このバージョンを使っている選手はすぐホームページからソフトを取り寄せ**Ver.2.11**にアップしてください。

<http://www.brauniger-flugelectronic.de/english.html?sid=1049447326.490417063>

できないかたはテイクオフ前にレコードのオールクリアを実施してから（レコードデータを1つずつのクリアはだめです。）テイクオフするようにしてください。

現在ルールブック及びHPにて使用可能GPSとしている以外のGPSに関しましては、競技委員会にてゲープルが手に入り、動作確認ができ次第HPにて順次お知らせしていきます。

II-14 【エリアルール】

1. 大会前の練習フライト、アウトサイドランディングの罰則等についてエリアルールを選手に事前に案内すること。
2. 主催者は、競技委員会（JHF）の指導の下、独自のテイクオフルールを決定してもよい。
3. ある指定された場所では、役員がセンタリング方向を指定できる。但し、極端な不公平があってはならない。

II-15 【安全】

1. 安全にフライト出来る条件で競技を行うこと。
2. **テイクオフ前に全体重をかけてハングチェックを実施する事。**

II-16 【運営】

1. 大会主催者は必ず選手の代表を含むタスクコミッティーとセーフティーコミッティーを設け、アドバイスを受けること。

《 クラス5 運営規程 》

III-1 【参加機体】

1. 参加機体は選手が申込時に登録（申込書に記入）し、競技役員の機体検査に合格したものであること。
1. 機体下面に60cm×60cm以上の大きさのゼッケンを貼り付けて参加する事。指定が無ければその限りではない。
2. ゼッケンの色はゴール役員がゴールにて判別できる色とする。

III-2 【参加機体の変更】

1. 原則として、（成立した1本目以降）使用機体が破損した場合、同一機種、同一サイズのものに変更する事ができる。
2. ただし、破損により修理不能の機体変更は、競技委員長の判断により他機種、他サイズのものに変更する事ができる。
3. 変更の際は、選手は書面にて競技委員長に機体変更申請を提出し、機体検査を受けねばならない。

III-3 【フライト失格】

1. 雲中飛行、空中接触等、危険な飛行と判断される場合や、故意にテイクオフを失敗した場合（テイクオフ役員の判断）そのフライトを失格とする。

III-4 【タスクコミッティー】

1. タスクコミッティーとは2～3名の参加選手と大会競技委員長からなる。
2. タスクコミッティーは競技内容を、安全面に注意を払うことができる限りの情報を集め協議し、その決定事項に関しては、選手全員の同意を求める必要がある。

III-5 【タスクコミッティーの役割】

1. その日の気象予報に応じた、適切な飛行空域と、テイクオフエリアを決める
2. その日のタスクを設定する。

III-6 【セーフティーコミッティーとその役割】

1. セーフティーコミッティーは、選手から2名選考される。セーフティーコミッティーはテイクオフ周辺を含めて飛行コース上が危険なコンディションになったときに、大会競技委員長にそれを連絡する。大会競技委員長はその情報を基に競技を続行するかどうかを決めなければならない。ただし競技を続行するかどうかの最終的な判断は飛行中のパイロット個人が下す。
また、タスクコミッティーにより決められた当日のタスク内容が安全に行えるかどうかを確認する。

III-7 【大会競技委員長】

1. 大会競技委員長は、エリアに精通した人たちからの情報（空中から、地上から）と意見を組み込みその日に合ったタスク案を提示することができる。

大会競技委員長は、飛行中のセーフティコミッティーに状況の変化の確認をすることができる。ただし、選手が競技委員長を兼ねることはできない。

III-8 【ブリーフィング】

1. ブリーフィングにはジェネラルブリーフィングとタスクブリーフィングとがある

III-8.1 ジェネラルブリーフィング

1. 参加選手は、大会主催者が行うジェネラルブリーフィングに参加しなければならない。その重要なインフォメーションは、公式掲示板に掲示される。

III-8.2 タスクブリーフィング

1. タスクブリーフィングは気象情報、エリア地図を加味してテイクオフエリア付近で、参加選手全員に対して行われる。
2. 競技内容は漏れなくタスクボードに記載される
3. ブリーフィング終了から、ウインドオープンまでは最低15 分間の余裕を持たせる

III-8.3 参加選手の責任

1. 参加選手全員はブリーフィングの内容、タスクボードの記載事項に関して、正しく理解しなければならない。

III-9 【競技キャンセル】

1. ダミーが全くソアリングできない場合または、ソアラブルではない場合、競技委員長は競技をキャンセルすることができる。
2. またこのような条件の場合は、タスクコミッティーおよびセーフティコミッティーは競技委員長に助言し、L/D競技にならないように協力すること。

III-10 【タスクストップ】

1. 競技開催中に気象の急変又は不足の事態が発生時、競技委員長はタスクをストップすることができる。但し半数以上の選手がテイクオフしている場合に限る。
2. その場合の得点はタスクストップ時までの距離得点、ゴール得点が与えられる。

III-11 【結果の掲示】

1. 結果の仮発表は、可能な限り早く掲示する
2. 仮発表後1 時間以内にコンプレインの受付を行う
3. すべてのコンプレイン、抗議を受け付け、結果訂正後、大会競技委員長の確認を受け結果の正式発表とする

III-12 【不服申立て(コンプレイン)】

1. コンプレインは訂正してもらうことが目的であり、抗議(プロテスト)を行うものではない。競技中何かに不満を持った場合、先ず担当役員にその処置につき援助を依頼する。その処置に不満がある場合、選手は競技委員長又はその指定する役員にコンプレインを行うことができる。このコンプレインは不満があった場合直ちに行い、迅速に処理しなければならない。

III-13 【ペナルティーおよび失格】

1. 競技委員長は、競技者が競技規則に違反した場合、違反者にペナルティーを科すことができる。

ペナルティーの程度

- a) 重大な違反にはその日のタスクの0スコアが科せられる
- b) スポーツ精神に反する行為は、大会失格となる

ペナルティーは、当該ペナルティーが科せられた日の結果表に記載される

III-12 【抗議(プロテスト)】

1. III-12 III-13 に関する処置に対して抗議がある場合は、競技開始前に行わなくてはならない
2. 抗議は、指定された時間内に書面で大会競技委員長に提出しなければならない
3. 供託金がある場合は、抗議が認められた場合は返却し、認められなかった場合は没収される

III-13 【陪審員】

1. 陪審員は、大会実行委員長、大会競技委員長、タスクコミッティー(代表1名)からなる3名とする。

III-14 【抗議の処理】

1. 大会競技委員長は、いかなる抗議も遅延なく陪審員に通知しなければならない。

III-15 【審査】

1. 陪審はいかなる抗議についても、該当するFAI 規則および、競技規則に基づいて、双方の意見を聴取する。

III-15.1 処罰と決定事項

1. 競技委員長は、結果および審査の概要を、公表しなければならない。

III-16 【結果の送付】

1. 大会の結果は、JHF 所定の大会報告書に、大会において提出された正式抗議と、それに対する処置を付記して、大会終了後2 週間以内にJHFに提出する。(大会順位表にJHFフライヤー会員番号を明記する)

III-17 【事故及び損害賠償】

1. 大会期間中、万一事故や傷害、損害が生じた場合、フライトエアリアルール及び大会(競技)規則に則り選手本人の責任において速やかに処置を行い大会本部に報告をする。
2. 選手は主催者及び大会関係者に対して責任追求、損害賠償などの要求を決して行わないこと。

III-18 【フライトの成立】

1. 物理的に全選手がテイクオフするだけの時間(当日の参加者×1分)ゲートが開いており(選手が同時にテイクオフすることが可能な複数のゲートがある場合はその合計オープン時間)、なおかつディクオリティが0を超えた場合。あるいは当日参加選手全員がテイクオフし、なおかつディクオリティが0を超えた場合競技は成立する。

III-19 【大会の成立】ハンググライディングシリーズとしての大会成立は、ディクオリティが合計0.8を超えた場合とする。

III-19 【成績発表】

1. 得点計算が終わり次第、公式掲示板にてフライト成績を仮発表する。
2. 正式発表は翌日の受付時間とする。
3. 成績発表後定められた時間以内に異議申し立てがなければその成績は公式のものとする。

4. 表彰式以前で計算などの明かな運営側のミスがあった場合成績の修正ができる。

III-20 【順位の決定】

1. 大会期間中の合計得点で順位を決定する。
2. 10 位以内の選手の合計得点と同点の場合、ゴールした数の多い方が上位とする。

III-21 【FAI カテゴリー 2 の成立基準】

1. Competition Quality Valueはタスクを2本以上飛んだパイロット数で最大100。
2. 有効なタスクが4本未満の場合、2本以上飛んだパイロット数 \times タスク数/4でタスクが1本の場合はゼロとされます。

《 クラス5 競技規程 》

IV-1 【タスクの発表】

1. 競技タスクは参加選手の技能に応じたものとする。
2. タスクは、気象条件等により競技開始前にブリーフィングで競技委員長が発表する。又、同時に公式掲示板にもタスクを掲示する。
3. 発表する項目は少なくとも大会名、月日、タスク、デパーチャーパイロン、タスク距離、ミニマム距離、ゲートオープン、ゲートクローズ、デパーチャーオープン、デパーチャークローズ、インターバルタイム、GAPパラメーター(ゴール人数の%、ゴール距離、ゴール時間)、シリンダーセクターの半径(ターンポイント、スタート)、タスクフィニッシュ、タスクレポート、本部電話番号、指定巡回方向とする。(タスクボードサンプルを参照)

タスクボードサンプル

タスクボード					
大会名	ハンググライディング大会				
2003年1月1日					
タスク	TO-A-V-R-LD				
デパーチャーパイロン	A				
タスク距離	54.0km	ミニマム距離	6.0km		
ゲートオープン	11:30	デパーチャーオープン	12:30		
ゲートクローズ	15:00	デパーチャークローズ	13:30		
インターバルタイム	15分間隔				
指定巡回方向	左				
GAPパラメーター					
ゴール人数	20%	ゴール距離	30km	ゴール時間	1時間

シリンダーセクターの半径			
ターンポイント	200m	スタート	2000m
タスクフィニッシュ	17:00	タスクレポート	18:00
		本部電話番号	0299(44)****

IV-2 【ミニマム距離】

1. 競技成立のミニマム距離は、6km以上とする。

IV-3 【タスク距離】

1. タスク距離は、30km以上に設定すること。
2. タスク距離は、参加選手の約20%の選手がゴールする様に設定する事が望ましい。（タスク設定はタスクコミッティーにて設定する事が望ましい）

IV-4 【競技時間】

1. 選手は、ゲートオープン時間からゲートクローズ時間の間に競技を開始する。尚、ゲートオープン時間以前の競技フライトは出来ない。又、ゲートクローズ時間以降の競技フライトするためのテイクオフも出来ない。ただし、オープンウィンドウを設ける場合はゲートオープン前にオープンウィンドウタイムを設ける事が出来る。
オープンウィンドウを設ける場合はオープンウィンドウをキャンセルした選手が最後尾への移動またはキャンセルした選手の機体をゲートオープン後に他の選手の邪魔にならない場所へ避けられるスペースがある事。このスペースを設けられない場合はオープンウィンドウを設けてはならない。オープンウィンドウにエントリーした場合はソアリング条件に如何に関わらず、オープンウィンドウタイム中にテイクオフしなければならない。オープンウィンドウタイム内にテイクオフしなかった選手は失格とする。

IV-5 【テイクオフ方法】

1. テイクオフ方法はフリーテイクオフとランチオーダーと各エリアのテイクオフポイント又はセットアップゾーンに適したものとする。

IV-6 【フリーテイクオフ】

選手の好きな時にテイクオフする。前もって自分のテイクオフする時間を予約する場合も含む。

1. ゾーン方式

- a) テイクオフポイントやテイクオフポイントへの通路が狭く、グライダーの入れ替えが難しい場合。

[セットアップゾーン]

1. グライダーは役員の指示があるまでセットアップしてはならない。
2. 前日までの成績により決められた場所で機体をセットアップして並ぶこと。又、全ての選手がスタンバイゾーンに進入出来るように通路を空けること。尚、初日及び同順位者のセットアップ場所は前年度クラス5順位及びパイロットナンバー順（または取得年月日）により決定する。

3. 前日までの成績が10位までの選手は、特別のシードゾーンにてセットアップし、スタンバイゾーンの列に割り込むことが出来る。尚、初日は前年度クラス5 ランキング上位10人までの選手及び指定外国人（世界選手権の50位以内）をシードとする。
4. 成績上位の選手が下位の選手より先にスタンバイゾーンに進入する権利を持っている。上記3の選手が最優先される。
5. セットアップゾーン の出口が混雑している場合、選手はフライヤー精神に則り、譲り合いの気持ちで スタンバイゾーンの列に並ぶこととする。

[スタンバイゾーン] 定員数名

1. スタンバイゾーン内は1列になり、先頭の選手から順次テイクオフゾーンに進む。
2. スタンバイゾーン内すべての選手がテイクオフゾーンへの進入を拒否した場合、このゾーンに留まることは出来るが、定員が超過した場合は、超過人数分だけ先頭より順次テイクオフゾーンに進む。
3. スタンバイゾーン内すべての選手が留まっていたが、テイクオフゾーンへの進入希望者が出た場合、先頭よりその選手までが、順次テイクオフゾーンへ進む。
4. スタンバイゾーンの列がセットアップゾーンまで伸びた場合は、セットアップゾーン規則4にしたがう。

[テイクオフゾーン] 定員数名

1. テイクオフゾーンに入るには、選手はスタンバイゾーンを通過しなければならない。
2. テイクオフゾーンでは選手は1列に並ぶ。
3. 前の選手がテイクオフしてから、次の選手は、2分以内にテイクオフすること。
4. テイクオフゾーンにいる選手が単数の場合、その選手は好きなときにテイクオフできるが、複数になった時点から2分以内にテイクオフすること。
5. a) 何らかの理由によりゲートクローズになった場合、先頭の選手は、ゲートオープン後2分以内にテイクオフする。

※スタンバイゾーン及びテイクオフゾーンは、割り込み（スタンバイゾーンはセットアップゾーン規則2以外の選手）、順列の変更は禁止する。

※スタンバイゾーン及びテイクオフゾーンへの進入希望宣言後は、選手はそれを取り消すことが出来ない。

※上記ゾーン規定を守らない選手は、そのフライトを失格とする。

- b) テイクオフエリアがある程度広く、テイクオフゾーンからスタンバイゾーン又はセットアップゾーンにライダーを速やかに移動できる場合は、1度宣言したテイクオフをキャンセル出来るようにしてもよい。
- c) 全てのゾーンが広い場合、スタンバイゾーンを設定せず、テイクオフゾーンを数カ所設ける。

IV-7 【ランチオーダー】

1. 予め決められた順番で選手はテイクオフしなければならない。
2. ランチオーダーの順番は上位選手がよい条件の時間にテイクオフできるように組むことが望ましい。

3. テイクオフの順番は前日の順位の10～25番位の選手をトップとしそこから逆に順位が上の選手がテイクオフしていき1番の選手のあとに残りの順位が上の選手からテイクオフしていく。
例) 15位の選手がトップの場合その後14位・13位・12位・・・3位2位1位とテイクオフし、その後16位から17位・18位と順番にテイクオフしていく。
4. 予め決められた順番をキャンセルした選手はランチオーダーの最後尾に並ぶ。
5. ランチオーダーの場合スタート時間はテイクオフ時間とするのが望ましいが、デパーチャーパイロンによるエアスタートまたは一斉エアスタートでもかまわない。
6. 成績が上位のものから順番にランチオーダーを選べる。

IV-8 【リフライト】

1. リフライトは何度しても良い
2. 但し、その競技の最終フライトが得点対象となる。
3. フライトする場合はその前のフライトのトラックログを消してからテイクオフする事

IV-9 【ゴール】

1. ゴールは、地上のゴールライン、GPS上のゴールライン（400m～800m）又はGPS上のゴールシリンドラー（直径400m～800m）とする。
2. ゴールには必ずゴール役員を置く。
3. ゴールした選手はゴール役員に自己申告する。
4. 集中してゴールしたときの混乱を避けるため、ゴールパイロンの近くにランディング場を用意し、ゴール役員がゴールの確認を行うこと。（ゴール以外の選手はゴールラインを通過しないようにすること）
5. ゴールラインを通過する選手は、ゴール役員の識別のため200m以下の高度でゴールをアピールしながら通過すること。
6. 地上のゴールラインの場合
 - a) 吹き流し2本により長さ最低50mのゴールラインを設置する。
 - b) そのゴールライン上空を最終パイロン方向から通過する。ゴール役員はゴールの確認を記録する。
 - c) ゴールした選手は、ランディング終了後、自分のゴールをゴール役員に確認すること。
 - d) 指定されたパイロンをクリアしていない選手は、ゴールライン上空を飛行しないように注意すること。

IV-10 【アウトサイドランディング】

1. 最初に身体の一部が接地してから安全に停止するまでの全軌跡がインサイドゾーンにある場合インサイドランディングとする。それ以外の選手は、全てアウトサイドランディングとする。アウトサイドランディングが認められている場合はベストポジションにて距離を測定し、アウトサイドランディングが認められていない場合は指定地にランディングした場合のみベストポジションを採用し、アウトサイドは最終パイロンまでの距離とする。

IV-11 【競技終了報告】

1. その日の競技参加受付を行った選手が、競技参加後ゴールを決めた場合ゴール役員の確認をもって報告とする。
2. 競技参加後ゴール以外に着陸した選手は、着陸報告時間までに安全確認の為大会本部へ自分が安全に着陸したことを報告する事。
3. この時間は原則としてタスクが十分にこなせるだけの時間をとって設定すること。
4. 指定した時間までに選手からの連絡がない場合は、減点対象となる場合がある。
5. ランディングクローズ時間は設定してはならない。

IV-12 【競技記録提出】

1. 選手はその競技の得点を得るためにGPSを指定された締切時刻（タスクレポートタイム）までに大会本部に提出すること。
2. この時刻は、競技最終日を除いて、十分余裕を持った時間を設定する事が望ましく翌日でも良い。
3. この場合のセットアップ、テイクオフ順はIV-6に順ずる。

IV-13 【時間の計測】

1. 飛行時間はスタートからゴールまでを計測し、秒単位とする。
 - a) スタート時間
スタート時間は、インターバルエアスタートとし、デパーチャーオープン時間から1分、5分、10分、15分の間隔でスタートパイロンが開くもの。この場合選手がわかり易い00分、15分、30分、45分等とする。選手はスタートを切る場合は時間に合わせる必要があり、もし7分にスタートを切った場合、この選手は00分のスタートとなり、55分の場合は45分のスタートとなる。
(時間はGPS時計とする)
デパーチャーのオープン時間は最大90分とする。
また一斉スタート（エアー及びグラウンド）の場合は、あらかじめ役員が指定した時間としてもよい。
 - b) フライング
スタート時間前にスタートを切った場合距離得点のみ付与する。
 - c) ゴール時間
地上のゴールラインの場合は、ゴールライン上空を最終パイロン方向から機体の最先端がゴールラインを通過した時とする。GPS上のゴールラインの場合は、GPS上のゴールラインを通過した時とする。ゴールセクターの前後のトラックの時刻から、ゴールラインを通過した時間を判定する。

IV-14 【シリンダー】

1. ターンポイントは半径200m～400m のシリンダー
2. スタートポイントは半径400m以上 のシリンダー
スタートシリンダーがテイクオフとは別のパイロンに設定した場合は、Enterスタート時はスタートラインの基となったポイントをファーストパイロンとする。Outスタート時はスタートシリンダー半径の2倍以上にファーストパイロンを設定する事。

3. テイクオフがスタートパイロンに設定する場合のシリンダー半径は規定しない。

IV-15【距離の測定】

1. ゴールした選手のフライト距離は、テイクオフあるいはデパーチャーポイントから各指定パイロン間、そしてゴールまでの距離を加算した距離である。
 - a) アウトサイドランディングが認められている場合及びアウトサイドランディングが認められていないが緊急ランディング場が設定されている場合：確認された最後のパイロン（或いはテイクオフポイント又はデパーチャーポイント）とその次のパイロン（或いはゴール）を結ぶ直線距離から、次のパイロン（或いはゴール）から次のパイロンに対して1番近づいたGPS上の点（或いは緊急ランディング）への直線距離を引いた距離（但しこの距離がマイナスになるときは0とする）と最終確認されたパイロン迄の距離を加えたものを飛行距離とする。次のパイロンに対して1番近づいたGPS上の点をベストポジションという。アウトサイドランディングが認められている場合はベストポジションにて距離を測定する。
 - b) アウトサイドランディングが認められていない場合：最終確認されたパイロンまでを飛行距離とする。緊急ランディング場が少なく、アウトサイドランディングが認められない場合は、途中でパイロンを設ける。アウトサイドランディングが認められていない場合は指定地にランディングした場合のみベストポジションを採用し、アウトサイドは最終パイロンまでの距離とする。

IV-16【得点計算】

1. 得点計算は、**GAPスコリングシステム(GAP2002)**にて行う。また、集計ソフトは「RACE 2003」及びそのバージョンアップソフト、セクター判定ソフトはCompe-GPS及び**同等ソフト**を使用する。

RACE2003 (**GAP2002**) のパラメーターは

タスク距離：30km

ゴール時間：1時間

ゴール人数：20%

とし、ハンググライディングシリーズは固定とする。

このパラメーターはタスクと同時に選手に発表すること。

2. 救急着陸得点付与

競技参加中不測の事態が発生した選手を救済のため着陸した選手に対して次の得点を付与する。

大会初日は選手全員得点の平均点、2日目以降は選手本人の平均点を付与する。

但し、事態によっては競技委員長の判断とする。